

村井知事の「審議会の意見無視」を厳しく批判!

4病院再編・県精神医療センター移転の問題点

**共産党県議団
三浦かずとし代表質問**

一、村井県政5期18年の検証と
問題点について

① 東日本大震災での被災者医療費免除で宮城県は2年で打ち切ったが、岩手県は11年も継続した。一体この違いは何なのか。

県の責任を放棄して県営復興住宅を一戸も建てず、全部市町村に押しつけた。さらに、今、県営住宅の廃止で住民を追い出すとは何事か、と指摘。

これに対し、知事は、被災が大きく岩手の5倍となり、継続は困難だった。復興住宅が整備され、県営住宅を整備する状況ではなくなったと責任を放棄する答弁。

② 「創造的復興」として漁業者の反対を押し切って強行した「水産特区」の失敗や、完成時期が12年も遅れ、事業費が400億円余にも膨れ上がる宮城野原防災拠点整備は、JR貨物を事実上救済するものであった。この大失政の反省はあるかと質しましたが、知事は一言の反省も語らず開き直りの答弁。

③ 知事の民間精神科病院の名取・公募に審議会反発!

そして混迷を極める「4病院の再編・移転問題」だと指摘し、県精神医療センターの移転に患者をはじめ、精神医療、保健、福祉関係の78機関・団体が反対しているとの強調。県精神保健福祉審議会に突然提案した名取市への民間精神科病院の募集・誘致も、知事が「選挙公約」を強調して了承を迫ったが、反対が11人で賛成はゼロだったと指摘し、「一番大切



9月12日代表質問にたつ、三浦県議団長

な患者の命を考えていない」と撤回を迫りました。
尚、村井知事は「審議会がどういう結論を出そうが私の結論は変わらない」と、自分が任命した「審議会」を否定する驚くべき発言をし、反発を買いました。

④ 農林水産業の現状と対応や、子ども子育て支援について、また東北一の宮城の財政力を生かし暮らし応援の均衡ある県土の発展を質問。

二、アルプス処理水の海洋放出の中止と、女川原発の火災防護対策の問題点を質問

知事は処理水の海洋放出はIAEAが国際基準に合致し、科学的安全性は担保されていると答弁。これに対し、三浦県議はIAEAが絶対ではなく、原子力の平和利用の機関だと反論。漁業者の理解を得ないで強行したことが一番の問題と指摘。

三、石巻須江発電事業の問題点を厳しく批判

知事は、県としても今後の全国知事会や国の動向をふまえて、必要に応じて国へ働きかけていくと答弁。

四、鳴瀬・奥松島・利府中インター間の県道路公社管理の無料化を早期に行うべきと質しました

土木部長「交通量がふえ、令和21年度としている償還完了が早まることが想定されますが、松島海岸インターなどの補修工事もあり、今後検討していく。」



詳しくは県議会ホームページをご覧ください。
<https://miyagi-pref.stream.jfif.co.jp>



日本共産党
県議団ニュース
速報版

2023年9月 第62号

発行：日本共産党宮城県議会議員団
（控室）TEL 022(211)3523
FAX 022(268)6093
E-mail: info@jcpmk.jp